

一〇二三年七月三〇日

流木に翅立て休む川蜻蛉 愛
犬散歩蚊遣火腰にぶらさげて む
遠雷や重きペダルに変速す む
夕闇に蚊遣り煙の這ふ三和土 ベ
油虫押さへて猫の目は爛々 正
蚤の市三尺寝して店主暇 素
本伏せてまぶた閉づれば蝉時雨 秀
鎮守の杜ただに激しき蝉しぐれ はく子
蝉しぐれ子と夫の忌を修しけり はく子
黙として酷暑に耐ふる力石 ぽんこ
補助輪の取れてどや顔日焼の子 かかし
滴りや昼なほ暗き杉美林 わかば
縄模様力士浴衣の颯爽と はく子
八寸の彩り豊か夏料理 素
夕立去り竿に数珠なす雨滴かな はく子
峠茶屋ポンと音させラムネ玉 かかし